

レ今自小
野勤之

〔年中定例記〕殿中從正月十二月迄御對面御祝已下之事、

一三日〇五 晴、御殿の軒に昌蒲に蓬をそへてふき申也、檜皮師の役也。

〔年中恒例記〕五月四日 蓬、菖蒲、御殿にふかる、檜皮師の役也、公人相添下行在之、

〔執政所抄下月〕五月五日 昌蒲事 淀刀禰卅駄 蓬十駄 根十荷 大津御厩廿五駄 蓬五駄 垂水東牧卅駄 同西十駄 橋御園卅駄 散所百十駄兼弘方七十駄 件菖蒲者四月下旬以例文句案主成上政所御下文下知之、菖所々 當時御所 東三條殿 檻敷殿 一條殿 塔本殿 御厩執事家司 宣旨殿 法成寺 京極殿御堂 御所并 東三條殿 四日召檜皮菖木守等其請取菖之、於出納物□美菖蒲根者、五日隨召進之、

〔蜻蛉日記 中之中〕五月にもなりぬ、我いゑとさたばとまれる人の本よりおはしまさずとも、ゑやうぶふかでは、ゆ、しからんを、いかせむするといひたり、

〔蜻蛉日記 下之下〕あくれば五月〇五のあか月に、せうとたる人ほかよりきて、いづらけふのゑやうぶは、などかおそはつかうまつる、よるしつることよけれなどいふにおどろきて、ゑやうぶふくなればみなひともおきて、かうしはなちなどすれば、ゑばしかうしはなまいりそ、たゆく香さへうせん、御らんせんに、もともなりけりなどいへど、みなおきはでねれば、ことをこなひてつかす、昨日のくもかべすかせ、うちふきたれば、あやめのかは、やうかへていとおかし、

〔枕草子三〕せちは、五月にゑくはなし、さうぶよもぎなどのかほりあひたるもいみじうおかし、このへの内をはじめて、いひゑらぬたみのすみかまで、いかでわがもとにゑげくぶかんと、思ひさわぎてふきわたしたる、猶いときまことにめづらし、いつかことおりはさはゑたりし、

〔繊花物語 六
耀く藤壺〕はかなく五月〇五年保